

＼ 日胆を語ろうシリーズ /

令和7年度 日胆ブロック 冬期研修会

自分自身で、ともに
～浦河における対話実践から～

支援者支援
としての
当事者研究

実践における
対話の
重要性とは

葛藤や悩みを
語り合い
ませんか？



参加者のみなさんと
日々の実践を一緒に振り返ってみませんか？

こんなお悩みありませんか？



- ✓ 業務に追われ、実践を振り返る機会がない
- ✓ 専門職としてのアイデンティティの揺らぎ
- ✓ 葛藤や悩みを語り合える場がほしい
- ✓ 対話の実践を学びたい
- ✓ これからも仕事を続けていけるだろうか…

日時

令和8年2月7日（土）

14:00～16:30

場所

苫小牧市市民活動センター
〒053-0021
北海道苫小牧市若草町3丁目3番8号

定員

30名程度

参加費

正会員500円 非会員 1,000円
(当日徴収)



お申し込みはこちらからお願い致します

講師

向谷地 生良氏

社会福祉法人浦河べてるの家 理事長
北海道医療大学 看護福祉学部 特任教授

青森県十和田市出身

大学を卒業後、1978年4月より北海道日高にある総合病院精神科にソーシャルワーカーとして勤務。精神障害などをもつ当事者と地域活動拠点として「浦河べてるの家」（1984年4月、現社会福祉法人）の設立に参加。2001年に対話実践として当事者研究を創案、2003年4月より北海道医療大学看護福祉学部で教鞭をとり、国の内外において当事者研究の普及に取り組んでいる。2021年3月に北海道医療大学名誉教授、4月より大学院、看護福祉学部、先端研究推進センター特任教授に就任、10月に社会福祉法人浦河べてるの家の理事長に就任。
○著書「べてるの家の非援助論」「技法以前」（医学書院）・「べてるの家から吹く風」（いのちのことは社）「新・安心して絶望できる人生」（いのちのことは社）他多数

